

第 2 回世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会での主な意見

地域行政について

常勤職員の数を減らしているといっているが、非常勤職員の数も入れて検討すべき。今後の展開が重要であり、本庁が減って支所が増えるのか、本庁も支所も増えるのか等、区として、今後どうしていきたいのかを出すべき。

基本の方針 1 . 区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎について

参加と協働が、機能の一番最初であり、大変いいが、書き方が弱く、本庁としての区民交流機能とは何かについて、はっきり書いてほしい。

高齢者が交流する場が少ないので、検討してほしい。

情報発信は、行政からの発信と区民からの発信がある。ギャラリー機能という考え方もうまく位置づけられるとよい。

Wi-Fi については、区民の利便性だけでなく、区から提供されるサービスや災害時の活用についても記載すべき。

障害者の生産品を購入できる場がないので、販売スペースは設けたほうがよい。

区民用の食堂は一つにまとめ、運営形態は区画を業者に貸し、民間に任せるべき。

周辺環境との調和だけでなく、周囲の拠点となるという視点も必要ではないか。

基本の方針 2 . 区民の安全・安心を支える防災拠点となる庁舎について

世田谷通りは、特定緊急輸送道路である環状 7 号線からの引き込み道路となるため、広域的な活動のためには、世田谷通りを死守する必要がある。孤立した要塞にならないよう工夫すべき。

通常時だけでなく、非常時に区役所本庁は、庁舎は何時もゆるぎない司令塔であるとの認識より、平常時と発災時の図面を二つ描くくらいのつもりで、その使用方法についても議論をし、設計すべき。

工事中に大規模災害があることも想定し、工期、工程を考えるべき。

防災拠点としているのだから、支所や出張所との連携強化を明記すべき。

本庁をどうするのか、支所をどうするのか、出張所をどうするのかを検討せず、本庁だけ強固にしても意味はない。

免震は維持管理費が最もかかる。

民間でも、災害時に完全に自立でき、数百人の帰宅困難者の受入れを想定しているところがある。3日間というのは初動期の目安としてはいいが、行政としてもう少し対応すべき。

今の広場はレンガで、もろく、つまずく。災害時に適しているといえるのか。広さだけではなく、そういった視点も必要である。

舗装されていない地べたの大切さを考慮すべき。

広場については、もっと積極的に、位置と誰が使用するのかを書くべき。

緊急時に車両が中庭に入れなければ問題でもあり、アクセス道路に近いところにすれば、

周辺との連続性にもつながる。

避難してくる人たちを広場でどのくらい受け止めるのか。または、周辺へどのように逃がしていくのか、ステージプランを持つべき。

セキュリティとして、ネットワーク上のセキュリティも書くべき。

基本の方針 3 . すべての人に分かりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎について

「すべての人に」というのは、当たり前のことであり、わざわざ書く必要があるのか。三軒茶屋に総合支所が移転して、本庁舎にも同じような機能が残るということは区民の理解を得られないのではないか。

今の庁舎で一番やさしくないのはトイレなどのサニタリースペースである。

平常時と夜間などの時間外出入口の場所が異なるというのは、ユニバーサルの視点からは望ましくない。平常時と非常時の差をなくすよう努めるべき。理解度の違いにも配慮するのがユニバーサルの視点である。

設備については、トイレに限らず、もっと記載すべきことがあるはず。

カウンターについては記載があるが、記帳台についても配慮してほしい。

待合い空間の充実として、子ども連れだけ記載があるが、他にも配慮すべきことはあるのではないか。

交通アクセスについては、区の方針を決めてから記載すべき。

その他

区道を廃止すれば、自由度が広がるのではないか。

世田谷通りからは、必ず世田谷線の踏切を通ることになり不便である。